

令和3年度事業計画

社会福祉法人 弥生会
パステル保育園

1. 保育理念

保育園は、子どもたちが生活の大半を過ごす場所であり、子どもたちの大好きな大きな家庭であるといえる。子どもたちは、幼くてもそれぞれ異なった個性と人格を持っている。誕生し、周りの人々に尊重され、大きな愛情に包まれることによって、情緒が安定し、そして、その能力が引き出され、伸びてゆくことができる。私たちは、その成長した姿をイメージし、四つの基本、「徳育」「体育」「知育」「食育」をバランスよく考えながら日々の保育に専念する。

2. 事業環境

・少子化が叫ばれる一方で、母親の就業率は高まり、結果として保育ニーズは高まっている。

利用する保護者が保育所に期待することも多様化し、それぞれの保育所の独自性も問われるようになってきた。とりわけ、知育に対する期待が大きくなってきていると思われる。

・令和2年度、そして令和3年度がこれまでと大きく異なるのが新型コロナの存在である。令和2年度ほどの混乱はないと思われるが、エッセンシャルな仕事である保育所の閉所は社会的影響大であり、令和3年度もウイズコロナの中で安全な場所としての保育所運営をしていかなければならない。

そのためには、従来以上の衛生管理は当然のことであるが、万が一の保護者あるいは保育所職員から感染者が出た場合の対応についても常に留意する。

・働き方改革が求めるワークライフバランスの実現のための大きな要素が労働時間の短縮である。若い子どもたちに対応する保育はアナログ的であり、簡単に合理化できるものではないが、事務作業、様々なツール類の作成についてはデジタル化、ICT化に積極的に取り組んでいく。

・処遇改善等加算により収入の改善はなされ、キャリアパスは保育士等のモチベーションアップにはつながるものの、それに伴う評価制度の構築・運用は今後とも慎重に進めていく必要がある。また、保育士等がキャリアアップのための研修を積極的に受講する環境づくりが必要である。

3. 基本計画

<理念に基づく保育>

「知育」について、プリントを使つての「かずとことば」の学習をより効果の高いものにしていく。個人差があることを考慮に入れながら、年齢に応じての目安、目標をカリキュラム化する。

<働き方改革>

職員の事務作業を軽減するためICT化の検討を進め、残業は最小限、有給が計画的に取得できる職場にする。

<キャリアパス>

職員が中長期的な目標を持ってキャリアアップの道筋が描けるよう「キャリアパス」の具体性を高めていく。短期的には、まず処遇改善に連動した目標設定と評価システムを整えるとともにキャリアアップのための外部研修の受講を推進する。

<安全管理>

事故防止のためのリスク管理、日常的な防犯管理に加え、避難訓練は毎月実施する。

<地域への貢献>

川西市から委託されている地域子育て支援事業である「子育て支援センター」が、保護者の子育ての不安、悩みを解決する場となり、子どもたちにとって楽しい広場となることを目指して、地域に貢献する。

<収支の黒字化>

中期計画 22～24 年度を作成し、将来の大幅な改修に備えての財務体質強化をはかる。

以上